

5. 診療活動

三越厚生事業団は公益財団法人の認可を受け公益財団法人三越厚生事業団となり、健診事業はもとより外来診療も一般の方々を対象とした公益事業として活動している。

三越診療所は新宿駅西口から徒歩5分という交通の便のきわめてよい場所に位置し、雨天の場合には地下道を利用することにより濡れずにご来所いただける。

当診療所には外来診療部門と健診部門があり、外来診療部門では通常の外来保険診療とともに、入社健診、健診の2次検査あるいは精密検査も受けられ、多くの方々にご利用いただいている。ワクチン接種については、自費診療でインフルエンザ、肺炎球菌、麻疹、風疹、水痘（带状疱疹）、おたふくかぜ、B型肝炎、破傷風の各ワクチンの接種を実施している。受診者は一般企業の勤務者、新宿地区にお住まいの方、都内ならびに都外の遠方から来られる方など様々である。また、今年度も昨年に続き無料で新型コロナウイルスのmRNAワクチン接種を実施した。

診療内容については、一般内科以外に、脂質代謝、糖尿病、消化器、循環器、神経内科の各内科専門医、ならびに乳腺外科の専門医がいる。乳腺外科は原則的に予約制であるが、当日受診も可能である。

検査としては、一般血液、尿検査以外に、単純X線検査、心電図検査、**胸部X線、肺機能検査、眼底検査、ホルターならびに負荷心電図検査、24時間血圧測定検査、血管機能検査、胃透視検査、胃ならびに大腸内視鏡検査、ピロリ菌検査、デジタルマンモグラフィ、心臓・腹部・乳腺・甲状腺超音波検査、骨密度検査、腎盂造影検査**が受けられる。さらに、令和2年1月から健診オプションとして腹部CTを用いた**内臓脂肪測定検査**（保険適応なし）が可能となった。

胃透視機器については平成29年高精度の新機器が導入され、診断能の向上が期待される。大腸内視鏡についても、最新型の機器を平成29年末から使用している。内視鏡検査にはがんの早期発見の手助けとなる**NBI（狭帯域光観察）内視鏡システム**が導入されている。胃内視鏡検査には**新しいマウスピース（エンドリーダー）**が使用され、通常のマウスピースよりはるかに楽に検査が受けられる。マンモグラフィについても今年度7月最新鋭の**デジタル機器**が導入され、これまでより少量のX線量で質の高い画像が得られ、**検査時間の短縮と診断能の向上が期待される**。CT検査（単純ならびに造影CT検査）は平成27年に高性能の新機種が導入され、頭頸部・胸部・腹部の精密検査として施行される。なお、単純CT検査は平日午後に予約なしでご利用いただける。また、**血管機能検査（動脈の硬さの指標であるCAVI測定など）と頸動脈超音波検査による血管の動脈硬化度の測定、ならびに内臓脂肪測定**は、社会的に注目されているメタボリックシンドロームに伴う動脈硬化に起因する心臓ならびに脳血管障害の予測に有用である。画像検査の結果はすべてデジタル化しており、受診者に画像を見ながらわかりやすく説明している。これらの機器を取り扱う医師ならびに検査技師は、受診者への心配りはもとより、安全かつ正確で迅速な検査を心掛けており、機器や試薬についても新しい情報をもとに常に改善を図っている。

外来受診者の病気については、感冒、腹痛、胸痛、頭痛、動悸などの急性の病気から、高血圧、高脂血症、糖尿病、痛風、脂肪肝などの生活習慣病、慢性肝障害と胃腸病、不整脈、動脈硬化に伴う心臓病と脳血管障害などの慢性の病気まで、**専門の知識を持ち、経験豊富な医師（認定医および専門医）が診察**にあたっている。受診者のなかには、当事業団の三越総合健診センターで健康診断を受け、2次検査となった人、あるいは区健診の2次検査の人も多くみられる。また、当診療所は、区健診の2次検査としての胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査の指定診療機関となっているので、多くの方が1次健診に引き続き当診療所でこれらの精密検査を受けている。

外来は午前9時～午後1時、午後2時～午後5時まで診療し、午後1～2時は昼休みである。個人情報保護法の趣旨に従い、外来では名前の代わりに**番号での呼び出し**を行っている。当診療所は院外処方を探

用しているが、専属の常勤薬剤師が処方された薬剤についての説明をしており、電話による薬の問い合わせについても、常勤医師あるいは薬剤師がいつでも対応できる体制にある。なお、令和2年度から施行された、新型コロナウイルス感染症の流行にともない外出を控えている受診者への電話再診（自覚的に安定している慢性疾患受診者について定期処方箋の自宅への郵送を実施していたので、来院は不要であった）は本年の7月で終了した。

栄養相談は、高脂血症、糖尿病、肥満などを対象に主治医の指導のもとに週1回管理栄養士が対談形式で行っている。

当診療所は来所された受診者が納得し、満足のいく医療を受けられるよう、医師、看護師・保健師、検査技師、外来受付事務担当者、ならびに健診センター職員が相互に緊密な連携をとり、最良の医療となるよう心掛けている。その一環として、学会、研究会、講習会への出席、レントゲンカンファレンス、定期的に行われる医療研修会、薬事委員会、全職員が参加する研究活動を通して、最新の医療情報や技術を常に入手している。そのなかで有用なものはインフォームドコンセントを得たうえで受診者のために活用している。今年度は新型コロナウイルス感染症流行のため一部の活動は縮小された。

受診者が病気の説明、待ち時間を含め、満足する医療を受けられるよう、当診療所の**全職員が良質の接遇を心掛けている**。

三越診療所（外来と健診センター）の詳細についてはホームページを参照いただきたい。

（船津和夫 記）

A. 上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡は径がやや細めのオリンパス製電子スコープGIF-PQ260を2本使用し、受診者の負担の軽減に役だっている。さらに、**内視鏡挿入時の咽頭の不快感を軽減するため、咽頭麻酔剤の使用とともに、サイレースを静注し（年齢・体重により投与量を調整）、軽眠状態で行っている**ので、**楽に検査を受けられる**。なお、お年寄りの方や前回麻酔が効きすぎた方あるいは一部の企業検診や区検診では、麻酔なしで検査する場合がある。平成24年度秋から**新しいマウスピース(エンドリーダー)**を使用し、通常のマウスピースよりはるかに楽に胃内視鏡検査を受けられるようになっている。また、6年前に**内視鏡周辺機器が一新**され、これまでより鮮明な画像が見られるようになった。特に、**NBI（狭帯域光観察）内視鏡システム**は食道・胃・大腸内の様子を明確に画像表示し、がんの早期発見の手助けとなっている。

内視鏡の消毒には、内視鏡学会の基準に則した**強酸性電解質による殺菌を毎回行っている**。内視鏡検査で慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍の所見がみられた場合には、内視鏡によるピロリ菌検査が実施されることがある。新型コロナウイルス感染症が流行しているため、1例毎に感染予防を徹底したので、1日当たりの件数は減少した。令和5年度の施行件数は、男性329例、女性369例、計698例で、令和3年度の841例よりは少なかったが、令和4年度667例より多かった（表1）。経年推移をみると、平成29年度から令和元年度は1000例前後が続いたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け令和2年を中心に例数は減少した。令和3年から検査件数は改善しつつある。男女比では、女性が男性より多かった。男女比の推移については、平成20年までは男性が女性より多かったのに対し、その後は女性が男性より多い。

表1 胃内視鏡検査月別人数 (人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
男性	30	31	41	25	25	19	42	39	19	27	16	15	329
女性	17	25	37	31	26	23	63	47	39	26	12	23	369
総数	47	56	78	56	51	42	105	86	58	53	28	38	698

症例の内訳は、健診で胃内視鏡検査を受けた人は442例（男性207例、女性235例）（表2）で、令和4年度の371例（男性167例、女性204例）より多かった。健診以外の胃内視鏡検査受診者は256例（男性122例、女性134例）で、令和3年度の332例（男性150例、女性182例）、令和4年度296例（男性138例、女性158例）より少なかった。その内訳をみると、2次検診として23例（男性13例、女性10例）で令和3年度の21例（男性8例、女性13例）、令和4年度の18例（男性12例、女6例）より多かった。他所からの紹介を含めた外来受診者は233例（男性109例、女性124例）で令和3年度の311例（男性142例、女性169例）、令和4年度の278例（男性126例、女性152例）より少なかった。外来からの胃内視鏡検査数は平成25年から胃内視鏡検査を受けたピロリ菌保菌者の除菌治療が保険適応になったため増加傾向にあったが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の流行のため減少した。

表2 胃内視鏡検査受診者の内訳 (人)

	健診	健診より2次	外来	他所より	計
男性	207	13	101	8	329
女性	235	10	113	11	369
計	442	23	214	19	698

胃内視鏡検査所見（表3）としては、例年どおり食道は食道ヘルニアと逆流性食道炎が多くみられた。胃については、慢性胃炎、良性ポリープ、びらん、表層性胃炎がよくみられ、胃潰瘍は2例（令和4年度2例）であった。十二指腸については、ポリープと潰瘍瘢痕が多くみられ、潰瘍はみられなかった（令和4年度4例）。所見なしは59例であった。

表3 胃内視鏡検査所見 (人)

食道	食道がん	1	胃	胃がん	2	十二指腸	十二指腸がん	0
	食道乳頭腫	0		MALTリンパ腫	1		びらん	4
	粘膜下腫瘍	1		表層性胃炎	115		潰瘍	0
	白斑	5		慢性胃炎	231		潰瘍瘢痕	9
	逆流性食道炎	115		胃潰瘍	2		ポリープ	20
	ヘルニア	271		腺腫	2		憩室	1
	憩室	0		良性ポリープ	252		粘膜下腫瘍	6
	潰瘍瘢痕	1		びらん	153		その他	12
	カンジダ症	7		潰瘍瘢痕	18		所見なし	59
	バレット食道	31		粘膜下腫瘍	36			
	ポリープ	2		憩室	0			
	びらん	1		残胃炎	11			

ヘリコバクター・ピロリ菌検査は内視鏡施行時、ピロリテックテストが実施され、検査数は15例（男性8例、女性7例）であった（表4）。件数の推移については、平成23年度75例、平成24年度58例に比べ、平成25年度から平成28年度にかけては150～270例とこの4年間は比較的多かった。一方、平成29年度から令和3年度は20～40例、令和4年度11例、令和5年度15例と減少傾向が続いている。この減少傾向は新型コロナウイルス感染症の流行に伴う胃内視鏡検査数の減少に一因があると思われる。

平成25年からの増加は後述するように胃内視鏡検査受検者でピロリ菌の除菌治療が保険適応となったためである。その後の減少は、内視鏡検査で新たに見つかる胃炎患者の減少も関与していると考えられる。

今年度のピロリ菌検査陽性率は53.3%（男性62.5%、女性42.9%）で、平成30年度80.0%、令和元年度86.0%に比べ減少していた。なお、陽性率は令和2年47.0%、令和3年度56.5%、令和4年度72.7%であった。令和2年度以降は症例数が少ないため、参考値と考えたい。

表4 ピロリ菌検査人数と陽性者数 (人)

	男性	女性	計
検査数	8	7	15
陽性者	5	3	8
陽性率 (%)	62.5%	42.9%	53.3%

平成24年度までは、ピロリ菌除菌治療の保険適応は胃・十二指腸潰瘍、早期胃癌の内視鏡治療後、悪性リンパ腫の一つである胃MALTリンパ腫、血液の難病の特発性血小板減少性紫斑病に限定されていた。ピロリ菌感染は胃癌の原因であり、その予防のために、平成25年度から**胃内視鏡検査を受け、胃炎がある場合にピロリ菌検査と除菌治療が保険適応**となったことから、胃内視鏡検査とそれに続くピロリ菌検査数は一時増加した。ピロリ菌陽性者のほとんどが当診療所で、抗生剤2種類と胃薬を1週間内服する**ピロリ菌の除菌療法**（1次除菌療法あるいは2次除菌療法）を受け、ほとんどの人で除菌は成功している。

胃内視鏡検査で発見された胃癌、食道がん症例の4例を示す（表5）。食道がんは早期で内視鏡治療がなされたが、胃癌はいずれも進行がんであった。

表5 胃内視鏡で発見された胃癌症例

性別	年齢	診断名	部位	進行度	術式（紹介）	依頼元
男性	78	扁平上皮がん	食道下部	早期	ESD	企業健診より
女性	71	MALTリンパ腫	胃体上～中部	進行	ピロリ菌の除菌	個人健診より
	77	管状腺癌	胃角部	進行	未定	外来より
	81	管状腺癌	前庭部	進行	未定	外来より

B. 下部消化管内視鏡検査

大腸疾患の検査については、注腸検査（肛門からバリウムを大腸に注入し、レントゲンを使って大腸粘膜の変化を観察する）は近年激減し、要精査になった場合大腸内視鏡検査が必要なことから現在は行われていない。大腸内視鏡検査は柔軟性に富み受診者に優しい最新型のPCF-H290Iを2本使用している。前処置として、腸管内の便を完全に排出するため、前日20時に下剤のニフレック1リットルを1時間かけ服用し、さらに、検査当日朝8時にニフレックの残り1リットルを1時間かけて服用する。また、緩下剤を前日就寝前に服用する。午後から検査が行われる。令和2年2月までは当診療所においてニフレックを飲用していたが、3月から自宅での飲用に変更となった。前投薬として、麻酔薬を注射する。

大腸内視鏡検査件数は122例（男性73例、女性49例）で、令和1年度150例、令和2年度94例、令和3年度128例（男性69例、女性59例）、令和4年度102例（男性57例、女性45例）、今年度122例と件数の大きな変化はなかった（表6）。新型コロナウイルス感染防禦のため、1日当たりの検査数を制限し、検査毎に消毒の徹底を図っている。

表6 大腸内視鏡検査月別人数 (人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
男性	5	8	6	7	7	5	5	8	5	4	7	6	73
女性	5	2	7	5	4	4	7	1	3	4	5	2	49
総数	10	10	13	12	11	9	12	9	8	8	12	8	122

その内訳は、外来における検便潜血陽性および1年に1回の大腸内視鏡検査フォローを含む内視鏡検査32例（令和4年度39例）、一般健診の便潜血反応陽性から80例（令和4年度54例）、区健診の便潜血反応陽性から4例（令和4年度5例）、他所からの大腸内視鏡検査依頼6例（令和4年度4例）であった（表7）。一般健診便潜血反応陽性による精密検査での大腸内視鏡検査が例年より多い傾向がみられた。

表7 大腸内視鏡検査受診者の内訳 (人)

外来より	32
一般健診で便潜血検査陽性	80
区健診で便潜血検査陽性	4
他所より紹介	6

内視鏡所見としては、18例が無所見（令和4年度27例）で、有所見としては、昨年同様に痔47例（令和4年度22例）、腺腫45例（令和4年度24例）、憩室31例（令和4年度34例）が多く、次いで良性ポリープ25例（令和4年度16例）であった。なお、潰瘍性大腸炎5例（令和4年度3例）、大腸悪性腫瘍2例（令和4年度2例）がみられた（表8）。悪性腫瘍症例数の経年変化をみると、令和1年度6例、令和2年度7例、令和3年度4例に比べ令和4年度、5年度は2例とやや少なかった。

表8 大腸内視鏡検査所見

(人)

がん	腺腫	良性ポリープ	痔	憩室	大腸炎	潰瘍性大腸炎	クローン病	直腸炎	平滑筋腫	カルチノイド	びらん	所見なし
2	45	25	47	31	3	5	0	2	0	0	0	18

大腸内視鏡検査で発見された大腸悪性腫瘍2例の一覧を示す（表9）。男性2例で、依頼元はいずれも企業健診からの2次検査であった。S状結腸がん（進行がん）と直腸がん（早期がん）各1例ずつであった。後者については内視鏡治療で完治が期待された。

表9 大腸内視鏡で発見された大腸がん症例

性別	年齢	診断名	部位	進行度	術式（紹介）	依頼元
男性	47	S状結腸癌	S状結腸	進行	未定	企業健診
	66	直腸癌	直腸	早期	内視鏡的粘膜切除術	企業健診

(船津和夫 記)

C. 腹部超音波検査・CT検査など

腹部超音波検査は第1、第3木曜日と第2、第4金曜日の午前中に専門医により施行されている。この検査は、空腹状態で施行され、放射線被曝なしに簡便に受けられる画像診断として広く汎用されており、臨床診断上とても有用である。検査の対象者は、診療所の外来受診者と生活習慣病健診の2次検査として腹部超音波検査を指示された人である。病気としては、肝および腎のう胞、脂肪肝、肝血管腫、胆のうポリープ、胆石と肝内結石、腎結石、前立腺肥大などが多く、超音波検査のみで確定診断できる。肝腫瘍については、超音波検査時のカラードップラー法による血流測定や造影CT検査により肝血管腫などの良性の病気と肝臓がんとの鑑別を行っている。また、慢性肝炎、肝硬変という肝臓がんが生じやすい患者様のフォローアップについては1年に複数回施行する造影CT検査と併用される。超音波検査の精密検査としてCT検査が必要な病気としては、肝腫瘍、胆管拡張、腎腫瘍、腎盂拡張、胆のう壁肥厚、膵のう胞、膵管拡張、膀胱腫瘍、甲状腺腫、腹部リンパ節腫脹がある。これらは悪性腫瘍が存在する可能性があり、精査もしくは経過を追って繰り返し再検査が必要である。

腹部超音波検査の所見の判定には、検査を施行する術者の主観が入ることがあるので、病変の正確な診断には術者の経験と検査手技が重要である。

当診療所では、超音波検査の専門医が施行しており、精密検査として造影CT検査も受けられるので、受診者は安心して検査を受けることができる。また、外来に来院された症状のある患者にとって、食事をしているにもかかわらず即時の検査対応が可能であり、早期診断の一助となる。

性別各月ごとの施行件数を表10に示す。腹部超音波検査の検査総数は男性63例、女性71例（計134例）であった（表10a）。経年推移をみると、平成30年度246例、令和1年度222例、令和2年度175例、令和3年度172例、令和4年度141例、令和5年度134例とこの4年間は少なかった。これは新型コロナウイルス感染症の影響のためと考えられた。

頸動脈超音波検査は近年注目されているメタボリックシンドロームに伴う心臓や脳の血管の硬さを反映する頸動脈の硬化度をみるもので、全身の動脈硬化進行度の指標になる。また、プラークと呼ばれる破裂すると脳卒中を引き起こす頸動脈の限局的な動脈硬化巣の発見にも有用である。

頸動脈超音波検査は42例（男性21例、女性21例）であった（表13b）。頸動脈超音波検査数の推移は平成29年度から令和1年度にかけては例年100例前後であったが、令和2年度68例、令和3年度73例、令和4年度45例、令和5年度42例と新型コロナウイルス感染症の影響を受け、検査数が減少した。

甲状腺超音波検査は15例（男性5例、女性10例）施行された（表13c）。甲状腺超音波検査数については例年15～30例くらいであった。

甲状腺エコーは女性の受診者が男性に比べ圧倒的に多く、これは男性より女性に甲状腺の病気が多いためである。

表10 超音波検査月別人数

(人)

月	総数	a 腹部超音波検査			b 頸動脈超音波検査			c 甲状腺超音波検査		
		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
4月	16	13	5	8	1	1	0	2	2	0
5月	9	4	2	2	5	2	3	0	0	0
6月	18	13	9	4	5	2	3	0	0	0
7月	20	10	0	10	5	1	4	5	0	5
8月	17	15	7	8	2	1	1	0	0	0
9月	17	13	8	5	3	1	2	1	0	1
10月	10	6	1	5	3	2	1	1	1	0
11月	19	16	8	8	3	1	2	0	0	0
12月	21	15	8	7	5	3	2	1	0	1
1月	12	10	3	7	0	0	0	2	0	2
2月	11	7	4	3	2	2	0	2	1	1
3月	21	12	8	4	8	5	3	1	1	0
	191	134	63	71	42	21	21	15	5	10

CT検査は、肺がん、肝臓がん、膵がん、胆嚢がん、胆管がん、腎がん、婦人科のがん（卵巣がん、子宮がん）、甲状腺がん、縦隔腫瘍などの悪性腫瘍や脳疾患（硬膜下血腫、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍）の診断のために有用である。

また、令和1年度1月から健診オプション検査として、腹部CTを用いた内臓脂肪測定が開始された（保険適応外）。この内臓脂肪測定は腹囲測定に比べより正確に内臓脂肪量が判定でき、メタボリック症候群の診断上重要な検査である。

全CT検査数は372例であった（表11）。単純CT検査は外来・健診合わせて341例で、令和1年度688例、令和2年度432例、令和3年度467例、令和4年度389例に比べ比較的少なかった。

令和元年から開始された腹部CTを用いた内臓脂肪測定が単純CT検査数の増加に寄与している。この数年間は新型コロナウイルス感染症の流行のため、健診・外来受診者数が減少し、CT検査数の減少に影響していた。単純CT検査は胸部CT検査と内臓脂肪測定のための腹部CT検査が多くを占めた。

一方、造影CT検査はほとんどが腹部で外来受診者に精密検査として施行され、今年度は31例で令和4年度と同数であった。経年推移をみると、令和1年度62例、令和2年度40例、令和3年度32例であった。この症例数の低下は新型コロナウイルス感染症による外来受診者数の減少が影響しているためと考えられた。

腹部CT検査は単純CT検査19例、造影CT検査30例（計49例）であった。総件数については平成27年度から令和1年度にかけては100例前後が続いていたが、令和2年度79例、令和3年度67例、令和4年度58例、令和5年度49例と減少傾向にある。

令和1年1月から開始された腹部CTを用いた内臓脂肪測定は128例で単純CT検査数の増加に寄与していた。件数については令和2年度113例、令和3年度147例、令和4年度131例でほぼ同数が続いている。

頭頸部CT検査は全て単純撮影で前年度（12例）より多い17例であった。

表 11 CT検査人数

(人)

外来					健診			
単純CT 検査	頭頸部	17	造影CT 検査	胸部	1	単純CT 検査	胸部	91
	胸部	90		腹部	30		内臓脂肪	128
	腹部	19		計	31		計	215
	内臓脂肪	0						
	その他	0						
計	126	総計	372					

(船津和夫、植田充、茂木章子 記)

D. 病診連携

当三越診療所のある新宿区には、慶応義塾大学病院を始めとして、東京女子医科大学病院、東京医科大学病院の大学病院があり、さらに近隣の大きな病院としては国立国際医療研究センター病院、大久保病院、東京山手メディカルセンター（旧社会保険中央総合病院）、東京新宿メディカルセンター（旧厚生年金病院）、東海大学医学部附属東京病院がある。いずれの病院も区医師会と病診連携を行っており、その多くが区健診の精密検査の指定病院となっている。

急性疾患、慢性疾患のほとんどが当診療所外来で治療を受けているが、入院が必要な手術、医学的に入院加療が必要であると判断される急性腹症・肺炎・心筋梗塞・脳血管障害などの急性疾患については、病診連携ルートを紹介して近隣の病院あるいは遠方から来院される方には受診者の希望される病院を紹介している。

今年度の紹介患者数は161件で、令和2年度175件、令和3年度168件、令和4年度188件とほぼ同数であった（表12a）。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外来受診者数の減少により、それ以前に比べこの数年間件数は減っている。

頻度の高い紹介病院として、例年、慶応義塾大学病院、東京医科大学病院があげられ、それ以外には東京山手メディカルセンター、東京女子医科大学病院、東海大学医学部附属東京病院などであった。甲状腺疾患については、伊藤病院への紹介が多かった。また、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、婦人科などについて精査が必要な場合には近隣の専門病院や医院を紹介している。紹介先としては、過半数が大学病院もしくは大学病院と同規模の大病院である（表12a）。なお、今年度も新型コロナウイルス感染症流行に伴い一部の病院では新型コロナウイルス感染症以外の疾患の入院が制限されたため、紹介数の変動に繋がっている。

CT検査は、造影検査を含め当診療所において施行しており、外部の検査センターへの依頼はMRI検査が多く、他に心臓の冠動脈の狭窄をみるための心MRI検査と造影CT検査、脳波検査がある（表12b）。本年度の外部への検査依頼件数は79件で、令和2年度56件、令和3年度76件、令和4年度88件とほぼ同数であった。検査数については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外来受診者数の減少の影響がみられた。

検査結果については、いずれの検査も数日後に、検査データとともに専門医によるコメント付きの結果が当院に郵送され、外来で受診者に検査所見を説明している。

依頼した検査センターとしては、メディカルスキャンニング、大久保病院、水町MRクリニックにMRI検査、心臓画像クリニック飯田橋に心臓の冠動脈をみるためのMRI検査と造影CT検査を依頼した。

以上のごとく、当診療所は以前から大学病院をはじめとして、専門病院と病診連携を行っており、入院精査あるいは治療が必要な受診者に対しては、適切な病院紹介と情報提供を行っている。

表12 紹介先病医院・検査センター 一覧

α 診療・手術目的	件数	β 検査目的	件数
慶應義塾大学病院	17	メディカルスキャニング	65
東京医科大学病院	9	水町MRクリニック	5
東海大学医学部付属東京病院	6	心臓画像クリニック飯田橋	5
東京女子医科大学病院	3	大久保病院	4
東京山手メディカルセンター	1	計	79
東京都済生会中央病院	0		
その他大学付属病院	11		
その他病院・クリニック	114		
計	161		

E. 栄養相談

栄養相談は、主治医からの依頼を受け、病気の予防・改善を目的に患者さんの生活背景や食生活の内容を踏まえて、実行可能な方法を患者さんと一緒に考え、食事計画を提案している。また、食事療法を継続することの重要性を理解していただくために定期的に栄養食事相談に来ていただき、長期に良好な自己管理が出来る能力を身につけていただけるようにお手伝いをしている。本人とご家族に初回は30～60分、継続は20～40分間行っている。昨年1年間の対象者は26歳～86歳で平均年齢は男性59.3歳、女性54.9歳であった。

「流行りの糖質制限はよいのか?」「やせられない」「血糖を上げずに太りたい」「筋肉をつけたい」「コレステロール値が下がらない」「薬を減らしたい」など様々な問題や悩みに対し食事、運動、生活面からアプローチをしている。

2型糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症などの疾患の多くは、朝食の欠食、夕食時刻が遅い、野菜料理が少ない、食塩の摂りすぎなど食生活に関係が深いことが言われている。これらはちょっとした工夫や食べ方で身体の負担を減らし、健康を維持することが可能である。生活環境や食事習慣をうかがい、年齢、性別、体格、活動量、症状、ライフスタイルに合わせて、オーダーメイドの食事プランを立てるようにしている。普段、食べている食事の栄養バランスが血液検査データや随時尿による推定食塩排泄量などと照らし合わせて、診断し話をさせていただいている。また食事記録による判定も行っている。

忙しくて来られない方や、「面談はちょっと」と思われる方には、食事記録と食事問診票による「書面栄養相談」を受け付けている。

昨年度の糖尿病健康教室はコロナ禍がおさまりつつあるなか開くことができた。参加者の平均年齢74.5歳、

平均HbA1c 6.5%と糖尿病境界型ではありますが、疾病予防の意識が高い傾向です。最新情報も交えながら、糖尿病専門医からは基礎知識、管理栄養士からは食事療法の基本・応用をお伝えしている。

(管理栄養士 渡邊潤子 記)

個別栄養相談

日 時：第2、3、4の金曜日の午前中、第1木曜日の午前中

相談員：管理栄養士（糖尿病療養指導士）

対象疾患：糖尿病、肥満症、痛風、高血圧症、脂質異常症、慢性腎臓病、肝臓病、
消化器疾患、貧血、低栄養など

糖尿病教室

日 時：第4金曜日12:30～13:40（年2回予定）

担当：糖尿病専門医、糖尿病療養指導士（管理栄養士）

内 容：これからの糖尿病治療とは？ 食事療法基礎編（食べ方とその内容・間食について）

表13 個別栄養相談件数

項目	男性	女性	書面 栄養相 談	糖尿病	脂質 異常症	高血圧	肥満症	肝疾患	腎疾患	貧血	計
人数	42	38	1	44	13	12	3	5	3	1	81

*複数の疾患を合併している場合は主病でカウントをしている

表16 糖尿病健康教室件数

項目	男性	女性	計
人数	0	5	5

F. 嘱託産業医活動

各常勤医は、働く人の健康を確保するための産業保健に関する専門・技術サービスを提供する認定産業医の資格を取得し、各関連企業と契約をして嘱託産業医活動を行ってきた。

21世紀に入り構造不況が続き、内外にわたる環境や構造の変革が進み、各事業所においても職場組織・職場環境が大きく変化し、就業形態の多様化が進んでいる。令和元年度末にCOVID-19感染流行の波が繰り返し、非常事態宣言下での企業活動、テレワークを推進する状況となり、さらに令和3年度末にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、ますます経済の停滞と昔の世界恐慌を超える不況が懸念されている。令和5年5月になってCOVID-19感染症は5類感染症に変更になったのでテレワークも少なくなるが、疾病を持っている職員やハイリスク該当者などが、そのままテレワークを続けるかどうかという基準も明らかかなものはなく、現場では混乱している。職種によってテレワークが定着することもあり、働き方の多様性が見られる。企業内では、パワハラ・派遣労働社員問題や、勤務体制のシフト化による労働時間の変化、そしてテレワークで自宅での作業環境の変化や上司同僚とのコミュニケーション不足などがあり、COVID-19感染や戦争による漠然とした不安感に包まれるなかで、メンタルヘルス不調者が増えている印象であった。

平成27年12月より50人以上の事業所は職員にストレスチェックを行うことが義務化され、各事業所で実施されている。平成31年4月1日から「産業医・産業保健機能」と「長時間労働者に対する面接指導等」が強化されてきている。また高度プロフェッショナル制度対象労働者や研究開発業務従事者など、職種による面接指導を事業所にあったケースバイケースで対応することが求められている。

今年度は、当健診センターを利用している11の企業・事業所（昨年と同数）に対して、各常勤医（認定産業医）がそれぞれ担当になり、刻々と変化するCOVID-19をはじめとする感染症情報の提供や新型コロナウイルス感染後遺症の対応、健診で得られた結果をもとに生活習慣病管理やメンタルヘルスを含めた健康相談、労働者の健康管理を中心とした職場巡視、安全衛生会議参加による作業環境の管理や労働衛生教育、労働基準局への届け出、そしてストレスチェック後の高ストレス者面接などを、各企業の実態にあわせ工夫して実施している。

（山下毅記）

G. 診療資料

1. 診療患者延べ人数

11,560名（令和5年4月～令和6年3月）

延べ人数内訳	・ 外 来	10,520名
	・ 予防接種	1,005名
	・ 精密検査	35名
	計	11,560名

2. X線撮影件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
一般撮影	99	137	122	96	100	89	87	117	101	101	125	114	1,288	
胸部	25	57	36	35	45	27	25	36	29	34	56	42	447	
入社	18	23	22	22	14	16	12	25	24	34	28	28	266	
外科	3	3	5	1	3	3	7	7	1	1	3	1	38	
腹単	13	16	24	6	6	10	6	10	9	6	8	10	124	
外来エコー	2	0	2	0	0	1	2	0	1	0	0	3	11	
造影撮影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
CT	頭頸	3	4	0	1	2	0	1	1	2	1	0	2	17
	胸部	3	9	6	7	7	9	9	9	10	11	1	90	
	腹部	2	2	1	1	2	0	1	2	2	1	3	2	19
	FAT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純	8	15	7	9	11	9	11	12	13	12	14	5	126
	E胸部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	E腹部	2	2	2	2	3	0	3	5	2	3	3	3	30
	造影	2	2	3	2	3	0	3	5	2	3	3	3	31
乳房	9	14	14	8	11	16	16	14	13	5	5	10	135	
頸動脈エコー	14	5	8	13	6	5	4	7	7	4	6	9	88	
外来骨密度	5	2	1	0	1	2	1	1	2	2	2	3	22	
消化器	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
食道	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
胃部	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
診療合計	99	137	122	96	100	89	87	119	101	101	125	114	1,290	
胸部	819	807	875	614	642	996	936	764	395	614	667	923	9,052	
腹部超音波	198	152	212	143	128	759	474	425	203	201	231	274	3,400	
頸部超音波	55	46	60	38	33	17	65	46	32	64	64	87	607	
胃部間接	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
胃部直接	21	24	99	89	87	423	369	307	133	45	67	86	1,750	
C T (C)	5	8	11	3	4	3	11	5	5	14	8	14	91	
C T (F)	10	10	19	14	14	7	12	6	5	14	7	10	128	
骨密度	58	50	70	50	31	24	75	61	35	34	48	73	609	
マンモグラフィ	100	95	167	101	118	164	232	225	104	87	102	140	1,635	
乳腺エコー	1	1	3	6	2	3	6	9	5	2	1	5	44	
定健	324	384	379	354	281	361	163	55	5	56	66	251	2,679	
健診合計	1,591	1,577	1,895	1,412	1,339	2,756	2,343	1,903	922	1,131	1,259	1,863	19,991	
合計	1,690	1,714	2,017	1,508	1,439	2,845	2,430	2,022	1,023	1,232	1,384	1,977	21,281	

3. 臨床検査件数（健診）

年/月		R5年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年	2月	3月	合計
検査名		4月									1月			
生化学的検査	GOT	1,132	1,168	1,203	939	876	1,342	973	720	361	645	712	1,130	11,201
	GPT	1,132	1,168	1,203	939	876	1,342	973	720	361	645	712	1,130	11,201
	γ-GTP	1,132	1,168	1,203	939	876	1,342	973	720	361	645	712	1,130	11,201
	BUN	80	89	229	177	150	829	355	337	165	97	101	293	2,902
	クレアチニン	1,101	1,131	1,149	892	858	1,293	939	681	334	610	677	1,089	10,754
	尿酸	1,094	1,124	1,147	893	861	1,312	955	690	336	610	675	1,085	10,782
	中性脂肪	1,132	1,168	1,203	939	876	1,342	973	720	361	645	712	1,130	11,201
	総コレステロール	1,132	1,168	1,203	939	876	1,342	973	720	361	645	712	1,130	11,201
	HDL-コレステロール	1,132	1,168	1,203	939	876	1,342	973	720	361	645	712	1,130	11,201
	血糖	1,132	1,168	1,203	939	876	1,342	973	720	361	645	712	1,130	11,201
	HbA1c	1,099	1,129	1,152	880	857	1,285	920	664	333	569	636	931	10,455
	インスリン	72	51	107	59	61	39	113	137	88	70	73	117	987
	その他	1,781	1,759	2,790	2,214	1,882	8,292	4,158	3,615	1,737	1,220	1,394	3,268	34,110
生化学合計	13,151	13,459	14,995	11,688	10,801	22,444	14,251	11,164	5,520	7,691	8,540	14,693	148,397	
血液学的検査	CBC	1,134	1,168	1,203	939	876	1,342	977	722	360	643	707	1,134	11,205
	血液像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液合計	1,134	1,168	1,203	939	876	1,342	977	722	360	643	707	1,134	11,205
血清学的検査	高感度CRP	83	75	142	91	78	756	444	394	182	89	113	116	2,563
	CRP	39	53	64	28	39	24	73	47	9	10	20	33	439
	RF	23	21	30	27	17	13	32	20	9	18	15	30	255
	HBs抗原	59	62	77	44	45	43	58	41	28	22	26	42	547
	HCV抗体	39	33	38	34	26	712	31	32	23	36	28	45	1,077
	腫瘍関連	514	446	527	350	339	466	484	438	237	516	527	810	5,654
	血液型	40	48	59	29	37	30	38	20	9	8	22	21	361
	血清合計	797	738	937	603	581	2,044	1,160	992	497	699	751	1,097	10,896
一般検査	検尿	1,134	1,168	1,203	939	876	1,342	978	723	361	646	715	1,134	11,219
	沈渣	1,134	1,168	1,203	939	876	1,342	978	723	361	646	715	1,134	11,219
	便中Hb	784	763	799	551	553	966	797	621	321	567	593	875	8,190
	一般合計	3,052	3,099	3,205	2,429	2,305	3,650	2,753	2,067	1,043	1,859	2,023	3,143	30,628
生理学的検査	心電図	1,099	1,142	1,211	884	915	1,352	1,018	821	405	666	726	1,143	11,382
	肺活量	39	53	66	28	39	24	58	39	9	11	20	33	419
	眼底	114	127	287	217	176	151	641	626	306	216	222	246	3,329
	聴力	1,093	1,103	1,124	831	853	1,269	848	589	273	546	633	1,055	10,217
	生理合計	2,345	2,425	2,688	1,960	1,983	2,796	2,565	2,075	993	1,439	1,601	2,477	25,347
外注	感染症関連	123	109	172	88	102	50	97	62	62	47	53	86	1,051
	スメア(HPV)	98	103	154	113	110	137	264	216	118	64	88	116	1,581
	虫卵	9	5	4	8	7	2	5	6	5	1	5	4	61
	喀痰	6	8	15	14	16	16	22	23	1	8	10	16	155
	その他	615	525	756	484	512	307	572	410	307	402	449	633	5,972
	外注合計	851	750	1,101	707	747	512	960	717	493	522	605	855	8,820
総合計	21,330	21,639	24,129	18,326	17,293	32,788	22,666	17,737	8,906	12,853	14,227	23,399	235,293	

4. 臨床検査件数（外来）

年/月		R5年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年	2月	3月	合計
検査名		4月									1月			
生化学的検査	GOT	239	241	246	218	244	242	229	217	236	235	241	266	2,854
	GPT	239	241	246	219	244	243	229	218	236	235	241	266	2,857
	γ-GTP	176	198	200	156	165	156	141	140	155	154	158	197	1,996
	BUN	129	143	139	103	121	108	113	101	125	122	130	129	1,463
	クレアチニン	232	235	238	216	238	233	236	213	234	230	242	254	2,801
	尿酸	234	234	238	216	238	233	235	214	234	230	243	254	2,803
	中性脂肪	240	234	244	224	248	246	245	217	239	234	231	262	2,864
	総コレステロール	240	234	244	224	248	245	245	217	239	234	231	262	2,863
	HDL-コレステロール	240	234	244	224	248	245	245	217	239	234	231	262	2,863
	血糖	230	218	238	218	234	233	235	212	241	227	223	259	2,768
	HbA1c	218	203	223	206	216	222	225	198	227	213	215	246	2,612
	インスリン	0	3	4	6	3	4	1	1	2	3	4	3	34
	Na.K.Cl	180	172	175	164	175	181	184	160	183	175	200	190	2,139
その他	912	960	1,008	833	861	836	748	748	833	826	882	940	10,387	
生化学合計	3,509	3,550	3,687	3,227	3,483	3,427	3,311	3,073	3,423	3,352	3,472	3,790	41,304	
血液学的検査	CBC	203	206	214	201	211	222	208	195	199	205	213	228	2,505
	網赤血球	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	像-ST	12	17	16	16	18	13	12	15	4	8	16	7	154
	血液合計	215	223	230	218	229	235	220	210	203	213	229	236	2,661
血清学的検査	高感度CRP	6	14	11	7	12	12	8	6	10	6	17	9	118
	CRP	15	26	24	15	18	20	17	16	16	15	27	14	223
	RF	0	0	0	1	2	1	1	0	1	0	0	0	6
	HBs抗原	3	3	3	3	4	7	5	7	4	3	4	1	47
	HCV抗体	4	4	6	5	6	10	4	7	7	9	7	5	74
	梅毒検査	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	血液型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腫瘍マーカー	84	76	84	98	103	102	105	85	99	115	114	102	1,167
	血清合計	112	123	128	129	145	152	141	121	137	148	169	131	1,636
一般検査	検尿	73	72	66	79	80	69	72	80	80	76	71	86	904
	沈渣	57	53	53	56	61	59	56	54	61	58	43	57	668
	尿アルブミン	3	5	3	1	7	3	3	8	2	5	11	5	56
	妊娠反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	便中Hb	10	12	10	4	2	0	2	16	4	0	6	0	66
一般合計	14	16	16	9	8	10	6	23	11	9	13	5	140	
生理学的検査	心電図	76	85	78	92	83	85	100	96	93	81	91	97	1,057
	負荷心電図	9	7	3	10	7	4	6	8	4	4	4	5	71
	ABI	3	5	10	3	7	10	10	7	2	5	4	3	69
	肺活量	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
	眼底	0	0	2	0	0	2	1	0	0	0	2	0	7
	眼圧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聴力	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	生理合計	89	97	94	105	97	101	118	112	100	90	101	105	1,209
外注	感染症関連	4	2	6	5	8	6	6	6	6	7	16	12	84
	病理関連	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	喀痰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌検査	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	その他	80	115	91	89	124	64	129	95	87	94	150	112	1,230
外注合計	84	117	99	94	133	70	135	101	93	101	166	124	1,317	
総合計	4,023	4,126	4,254	3,782	4,095	3,995	3,931	3,640	3,967	3,913	4,150	4,391	48,267	